

倉敷代表は旅行代理店や学習塾経営という多彩な経歴の持ち主だが、元々行政書士を志していたわけではなかったという。

「仕事の1つとして家庭教師をしていた頃、生徒のやる気を引き出すために教師である私も試験を受けることにしました。そこで、今まであまり触れて来なかった分野である行政書士試験に挑戦しました」

結果、国家試験には見事合格したもののその後すぐには行政書士の仕事には就かず、引き続き教育関連の事業に携わっていた。

友人の勧めで行政書士としての道を選ぶ  
相続に特化した有数の行政書士法人へ成長

日本で最も有名な海岸砂丘である鳥取砂丘や、全国1位の水揚げ量を誇る松葉ガニ、二十世紀梨といった特産品。鳥取県は自然豊かな土壌に裏打ちされた海・山の幸や美しい景観で溢れている。そんな鳥取県の米子市に本社を構えるのがORCAグループだ。

行政書士業務を担う行政書士法人ORCAは「相続専門行政書士事務所」を掲げるだけあり、相続関連の相談件数は日本一を誇る。

全国に15支店と36の活動拠点を持っており、相続にまつわる様々な相談が日々絶え間なく寄せられる。同グループ代表の倉敷昭久氏は、行政書士事務所のサポートも兼ねて多様な事業に挑戦し、地域に必要とされるような組織を目指している。グループ全体をまとめているのは倉敷代表が掲げた「百年士業」という理念だ。全職員の心を1つにするこの理念には、倉敷代表のどのような想いが込められているのだろうか。

ORCAグループ

代表 倉敷昭久

自分たちの利益追求ばかりを優先させるのではなく、地域が何を求めているのかを考えて行動しなくてはなりません



相続相談日本一のグループが目指す  
「百年士業」

地域と人に必要とされる組織作りのため幅広く業務に着手

ある日友人の勧めで鳥取県行政書士会の理事と会った際、事業としての可能性を感じて行政書士登録をすることを決意。

そして2003年には前身である「行政書士倉敷昭久事務所」を開業。2010年に商号を「行政書士法人倉敷昭久事務所」として法人化し、西宮市に第1号となる支店を設置した。

冠婚葬祭業に従事していた頃に葬儀にも携わっていたこともあり、開業以来現在に至るまで、葬儀と関連性が深くその経験の活きる相続を専門とした行政書士法人として活躍している。

2022年に「行政書士法人ORCA」に名称変更し、関連組織を統合して組織名称を「ORCAグループ」と名付けた。それ以降も全国各地から相談が寄せられ、年間総相談件数は1万件を超えた。その内、年間相続受任件数は6000件以上にも上り、「相続のことならORCAグループ」という認識が周囲にも広がっていることが伺える。

「私たちの業務には行政書士の資格が必要ですから、必ずしも私の親族が当グループを承継していくとは限りません。そのため事務所の名称、そしてグループ名を『ORCA』に変更しました」

ORCAはシャチを意味する言葉。海の王者とも言われるシャチをグループ名に冠するのは、相続分野において他の追随を許さず、日本一の相続案件数を誇る同事務所・同グループにふさわしい。

現在、倉敷代表は組織をまとめるリーダーとしてマネジメントや新規クライアント、提携先の開拓に注力している。

「提携先を増やすべく、これまではあまり接点の無かった方々との繋がりを構築・強化するために日本全国を回っています」

また、行政書士資格を有さないスタッフを含めた全職員305人（2023年12月現在）に対し、1対1の面談「ワンオンワンミーティング」を1年掛けて実施。人材育成を通じた組織の育成にも奮闘している。

### 運営体制を工夫し全国の支店で高品質のサービスを提供

#### 様々な事業を展開し依頼者のニーズを幅広く充足

ORCAグループ内において行政書士業務を担う行政書士法人ORCAは、全国各地に15もの支店があるにも関わらず、どの支店でも高品質な法的サービスの提供が可能だ。

「各支店には行政書士を配置し、いただいたご依頼に関する業務は米子市の業務本部にて一括で行います。こうすることで提供するサービスの質を均一に保つことができるのです。また、当社ではこの体制をよりスムーズに推進させるためのシステムを独自開発し、運用しています」

支店の違いに関わらずサービスの質を保つ工夫を凝らすと共に、相談料金についても独自のこだわりを見せる。



行政書士法人ORCAを始めとし様々な事業を展開するORCAグループを牽引

「行政書士事務所では『初回相談無料』という謳い文句を掲げているものの、初回以降は出張や相談に応じて料金が発生してしまう、といったパターンが多々あります。当事務所でも無料相談は初回のみとさせてはいただいておりますが、1度受任した案件につきましてはどれほど出張やご相談をいただいても基本料金以外の費用を追加いただくことはありません」

このように、依頼者が心置きなく相談できる体制



鳥取県産の食材で好評を博している  
「わんこにゃんこのおいち」

を整えているのも、同事務所ならではの魅力だ。

行政書士法人ORCAは同グループが展開する様々な事業によって支援・補完されている。たとえば、業務提携窓口として設立された「一般社団法人ライフサポート協会」。この法人を窓口として、のど共栄信用金庫などを始めとする信用金庫や地域銀行と業務提携を行い、煩雑化しやすい相続手続きをワンストップで支援する体制を構築した。「行政書士法人だけでは実現出来ないようなサービスの提供が、金融機関と提携することによって可能になりました」と倉敷代表は語る。潜在的な依頼者を見つけ出す意欲的な取り組みだ。

同グループ内で信託業務を担う「株式会社グライフ信託」では、商事信託（営利目的の会社による財産管理）によって資金の管理サポートを行う。

「たとえば、ご家族を亡くされておひとりになられたご遺族の方が、体力や判断能力の低下などにより、財産を自身で管理出来なくなっても、自身の生活に支障の無いように、その資金をしつかり保全し、必要な場合には支払いに充てられるようにしておきたいというニーズも多くなりました。これに即応できるように信託ライセンスを取得しました」

中国・四国地方において信託会社は同社のみ。九州・沖縄地方を入れても合計2社しかなく、非常に貴重な存在だ。

このように行政書士業務の枠を超えた事業を展開することで、様々な悩みへの対応を可能にするのがORCAグループの強みである。

### 「百年士業」達成のために今できることは何か

#### 「0↓1プロジェクト」の推進で行政書士の枠組みを超え活躍

行政書士法人の枠組みを超え、様々な取り組みに着手していく同グループの推進力は、モットーでもある「百年士業」という言葉に込められている。

「百年士業、つまり士業を100年継続させるには、地域から求められる存在になる必要があります。そのためには自分たちの利益追求ばかりを優先させるのではなく、地域が何を求めているのかを考えて行動しなくてはなりません」

そこで同グループでは、社員総出で「0↓1（ゼロイチ）プロジェクト」に取り組んでいる。「全社員で新規事業を考案し、実際に取り組んでいく」というプロジェクトです。行政書士関連業務に限らず、幅広く事業に取り組みます」

たとえば倉敷専務を中心にORCAグループの総務を担当する株式会社SAKURAが考案した、ペットのおやつを製造・販売する「わんこにゃんこのおいち」も0↓1プロジェクトの1つだ。

「鳥取県産の食材を用いておやつを製造しているのが、地元のアピールにも繋がります。米子市長にこの事業について話す機会があった際も『ぜひ積極的に進めてほしい』とのお声をいただきました」

こういった地域活性化にも繋がる活動の傍ら、社会貢献活動にも尽力している。北海道盲導犬協会、そして同協会が設立した老犬ホームへの支援を募るため、本社・各支店に「ミーナの募金箱」を設置。他にも米子市内にあることも食堂へのクリスマスケーキのプレゼントや、ひまわり基金（貧困家庭への支援基金）への募金、社内に設置してある自動販売機を通じた鳥取県臓器・アイバンクへの寄付と、その活動内容は多種

多様だ。

しかし、倉敷代表はこれらの活動に対し「私たちは当グループの知名度ではなく、困っている人々の役に立てるような活動の知名度を上げるために貢献活動を行っております。一人ひとりの力は微々たるものかもしれませんが、大勢が集まり行動することで大きな力になるはずです」と語った。地域のみならず、より良い社会の実現へ向けて積極的にアクションを起こすことが百年士業への近道なのだ。

### 時間を超えて故人の意志を伝える遺言書 明確な付言は争族の芽の摘み取りに繋がる

行政書士法人ORCAの設立に至るまで、様々なケースを経験してきた倉敷代表。これまでに担当してきた依頼の中でも、書家だった夫を亡くした妻からの依頼が特に印象深いケースだったという。

「遺品の巻物に依頼者さんと夫の馴れ初めや思い出の数々が書き記されていました。夫から妻へ宛てられた、最後のラブレターです」

依頼者が涙ながらに読み進めていくと、最後に「財産は全て愛する妻に相続させる」という一文が。これはただのラブレターではなく、遺言書でもあったと倉敷代表は気付いた。

「遺産は遺言書に沿って相続されます。ただし、ご夫婦の間には長男と二男がいらつしやいました。この2人は遺留分（遺言書の内容に関わらず最低限の遺産を相続できる権利）を請求することが出来るのです」

最近の兄弟仲はあまり良好ではない上に、晩年には夫と長男の衝突もあったため、遺言書通りの相続が可能なのかと依頼者は心配していた。

「私はこの遺言書に込められた夫の想いは必ず息子さんたちにも伝わると思ったのです。ですから、息子さんたちのご意向はこの遺言書を読んでもらってから確認すべきだと依頼者さんにお伝えしました」

実際にその通りになると、息子たちからも「父の意向に沿いたい」との声があり、無事に相続手続きを終えることが出来た。

「この遺言書が争族（相続に関する親族間の争い）に発展しなかったのは、夫が『どのような想いから相続を決めたのか』を付言（遺言書内における遺言者の意思表示）として記述されていたから」だと倉敷代表は分析する。

「このケースのように、遺言者の強い想いが遺族へ大きな影響を及ぼすことも少なくありません。相続において重要な役割を持つ遺言書のお悩みがあれば、ぜひとも当事務所までご相談にお越しいただきたいです。行政書士という専門業として、ホスピタリティの高い対応で依頼者さんの意志を大切にしながらサービスを提供して参ります」

### 不測の事態に対応できる強固な基盤作りのために 『機に臨み変に応ずる』行動が組織存続のヒント

多様な事業を運営するORCAグループの今後について、倉敷代表は「更に強い組織にしたい」と高い向上心を見せる。

「当グループが目指している『百年士業』の達成にあたり、災害や法改正といった想定外の事態は避けては通れません。だからこそ、それらに耐えうる基盤を作っていききたいのです。0→1プロジェクトも、社員た

## PROFILE

## 倉敷 昭久 (くらしき・あきひさ)

1959 年生まれ、鳥取県米子市出身。  
2003 年、行政書士試験 合格。  
同年、米子市に行政書士倉敷昭久事務所 開設。  
2010 年、行政書士法人化。

## 【所属・活動】

NPO 法人開業塾（専務理事）、米子ロータリークラブ、米子法人会。

## INFORMATION

## ORCA グループ

<https://orcagroup.jp/>



## 所在地

本社  
〒683-0004  
鳥取県米子市上福原 235-9  
TEL 0859-38-5155  
FAX 0859-38-5158

## 業務内容

相続・遺言業務、成年後見業務、  
家系図・家族年表作成、各種許認  
可申請

## アクセス

JR 山陰本線「東山公園」駅より徒歩 17 分

## グループ概要

- ・行政書士法人 ORCA
- ・弁護士法人 ORCA
- ・一般社団法人 ORCA.Procedure
- ・一般社団法人ライフサポート協会
- ・株式会社グライフ信託
- ・株式会社 ORCA
- ・株式会社 ORCA.ICT
- ・株式会社 SAKURA
- ・株式会社 S&C Correlation

## 営業時間

〈月～日・祝〉10:00～18:00  
〈定休日〉GW・お盆・年末年始

設立 2003 年

## 理念

百年土業を成すことが我々の志です。



「機に臨み変に應ずる」対応で日々寄せられる相談を解決していく

ちに臨機応変な対応力を身に付けてもらうために始めました」  
倉敷代表が臨機応変さを重要視している理由は、三國志に登場する軍師、龐統士元（ほうとうしげん）が残した言葉「機に臨み変に應ずる」を行動指針としているからだ。  
「私はいつも『今の状況において最も確かな答えは何か』を考え、実践してきました。うまくいかなかったこともありましたが、それも糧にして進んできたのです」  
この言葉のように如何なる状況でも冷静さを欠くことなく、機転の利く対応で長年相続問題に向き合ってきたからこそ、ORCAグループもここまでの成長を遂げたのだろう。  
そんな相続のエキスパートである倉敷代表は、行政書士への依頼について「元気なうちにご相談にお越しいただくのが最良」だと述べた。

「『終活』という単語が頭に浮かんだ時が相談のタイミングとしてベストだと考えています。頭も体も元気なうちが、1番自分の将来を冷静に考えられるからです。当グループではそんな依頼者さんの人生の集大成とも言えるべき遺産を、依頼者さんにとって1番望ましい形で後世に引き継いでいけるようにサポートして参ります」  
相続で頭を悩ませる依頼者と地域社会に必要とされる組織を目指し、ORCAグループは今日もあくなき研鑽と成長を重ねていく。